



J-PARCの建設を振り返って

J-PARC センター長
永宮 正治

1. ニューマトロンからJHFまで
2. 統合計画の誕生の頃
3. J-PARCの完成まで
4. J-PARCの諸施設を支えるもの
5. 私の経験から得た教訓

J-PARC = [J](#)apan [P](#)roton [A](#)ccelerator [R](#)esearch [C](#)omplex

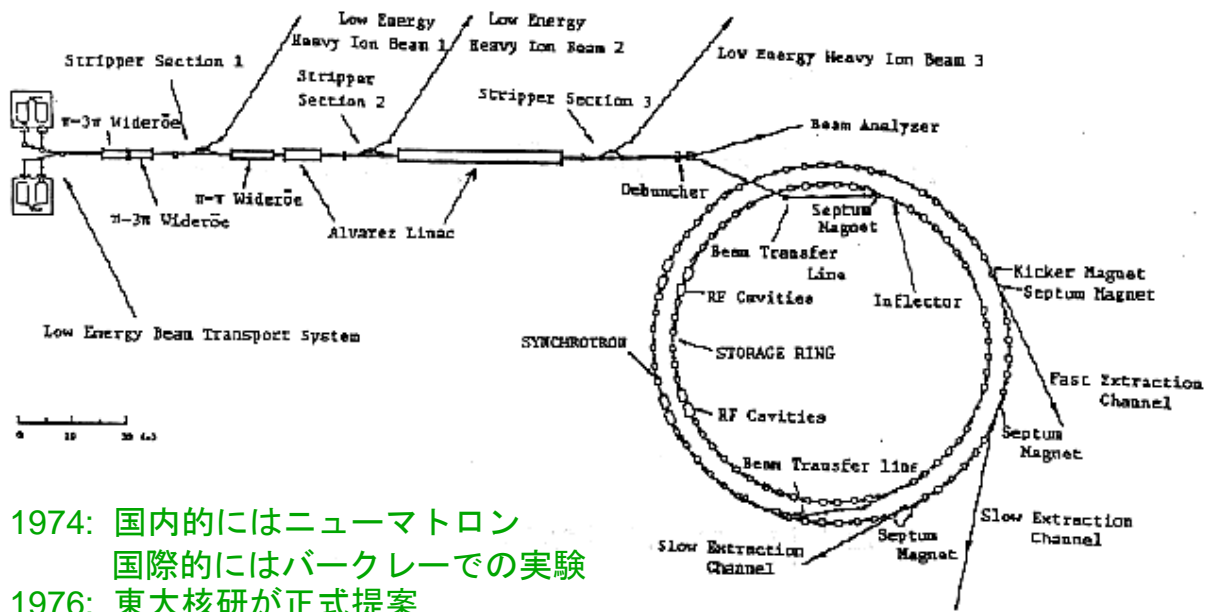
1



ニューマトロン
からJHFまで

2

ニューマトロン計画 (1976)

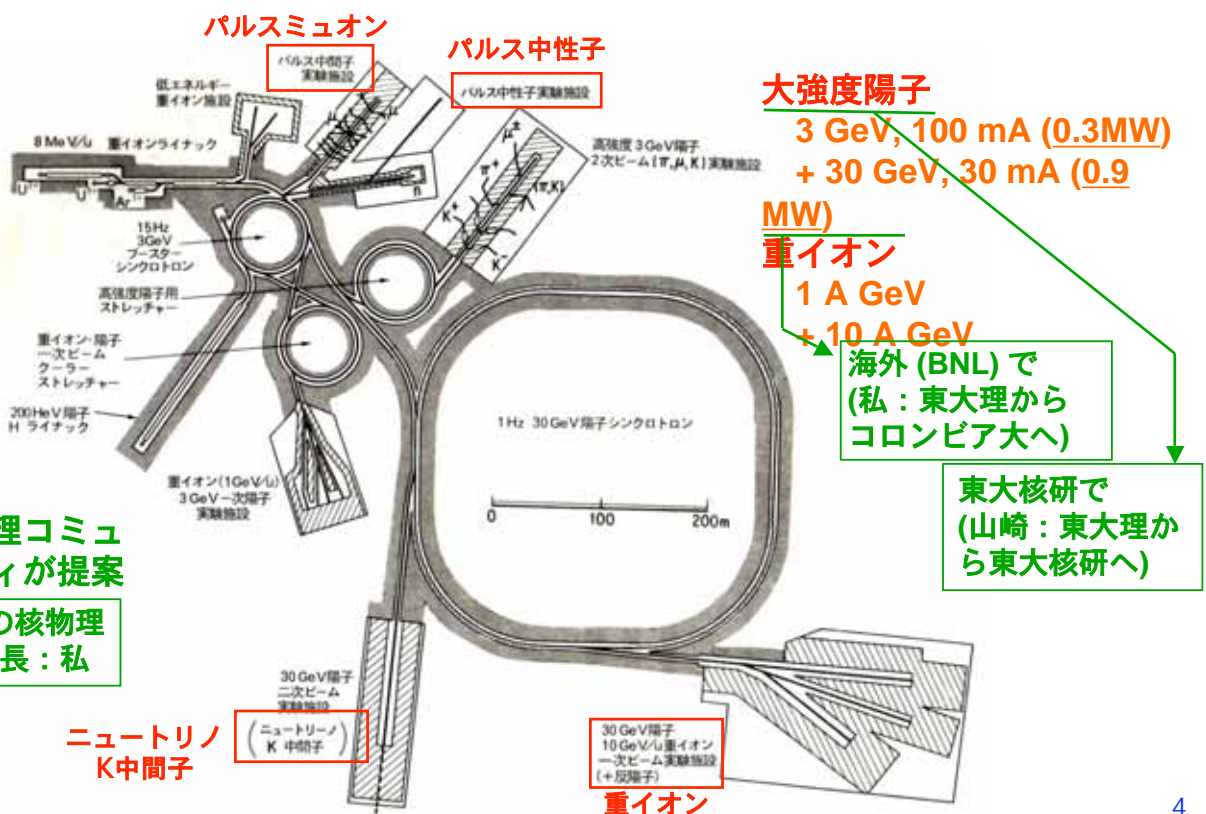


1974: 国内的にはニューマトロン
 国際的にはバークレーでの実験
 1976: 東大核研が正式提案

Bevalac エネルギー領域の重イオン加速器

1982: トリスタン計画の発足
 二重リングのアイデアは、現在、放医研で実現

大ハドロン計画 (1985)



大強度陽子
 3 GeV, 100 mA (0.3MW)
 + 30 GeV, 30 mA (0.9 MW)

重イオン
 1 A GeV
 + 10 A GeV

海外 (BNL) で
 (私: 東大理から
 コロンビア大へ)

東大核研で
 (山崎: 東大理から
 東大核研へ)

核物理コミュニ
 ティが提案

当時の核物理
 委員長: 私

ニュートリノ
 K中間子

重イオン

作業グループメンバー

より御援助を頂いたことも付記したい。今後、計画の本格的実施にあたっては、東京大学原子核研究所に実行計画案作成グループを設置して、関連分野との調整も図りつつ現実的な実施画案の作成を進めるよう要請したい。

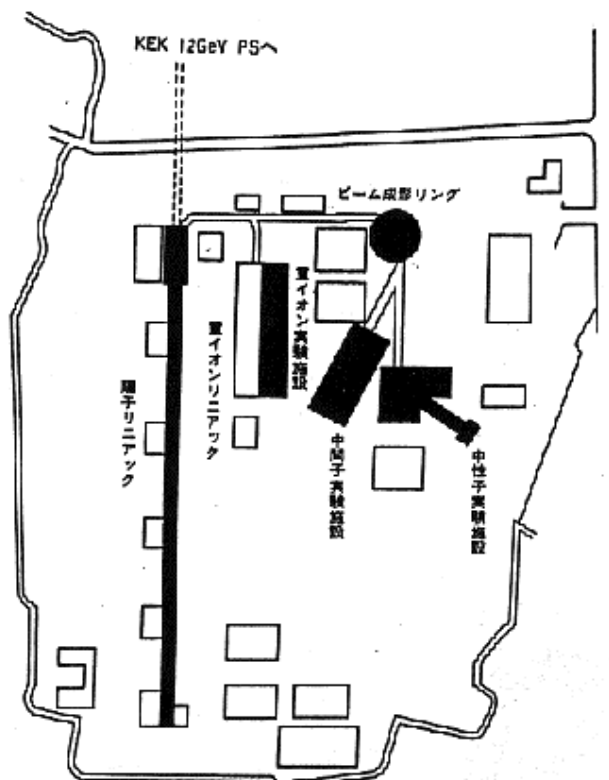
関係諸方面の御理解と御支援を希望する次第である。

昭和61年4月

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 新井重昭 (東大核研) 2) | 鷲見義雄 (広島大理) 1) |
| 井上 信 (京大化研) 1)2) | 永嶺謙忠 (東大理) 1) |
| 今井憲一 (京大理) 2) | 永宮正治 (東大理) 1) ... 世話人 |
| 岡田憲志 (阪大理) 2) | 中村尚司 (東大核研) 2) |
| 片山一郎 (阪大核物理センター) 1) | 野田 章 (東大核研) 2) |
| 片山武司 (東大核研) 1)2) | 野村 亨 (東大核研) 1) |
| 木村嘉孝 (高エネルギー研) 1)2) | 細野和彦 (阪大核物理センター) 1)2) |
| 熊谷教孝 (高エネルギー研) 2) | 山田 聰 (東大核研) 2) |
| 斎藤高嶺 (阪大核物理センター) 2) | 矢野安重 (理研サイクロ) 2) |
| 佐藤健次 (東大核研) 2) | 李相茂 (筑波大物理学系) 1) |
| 坂口治隆 (京大理) 1) | |

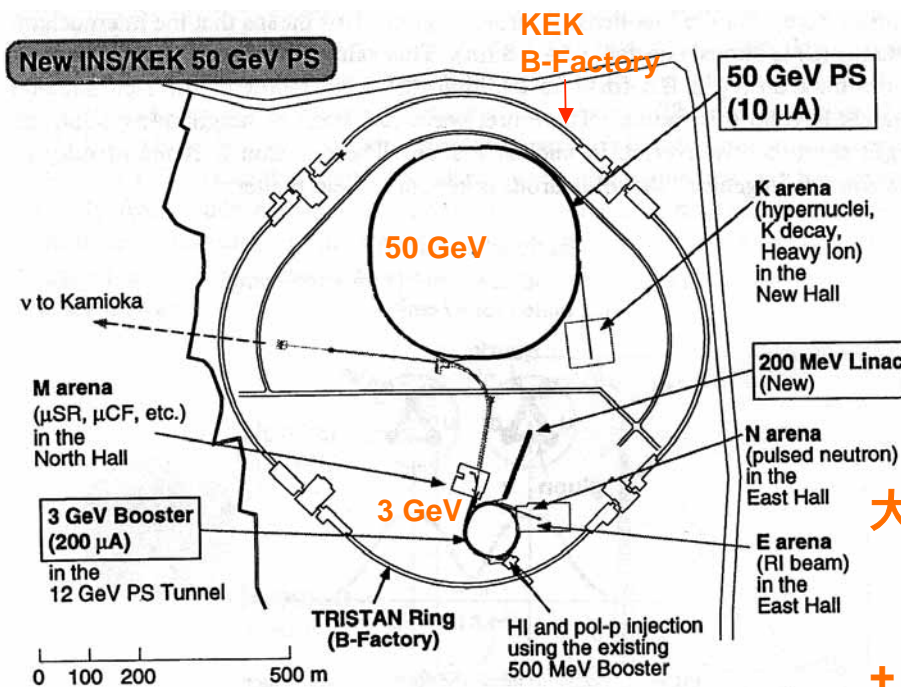
- 1) 大ハドロン計画ワーキンググループメンバー
 2) 同 加速器タスク・フォースメンバー

大型ハドロン計画 #1 (1987) JHP



東大核研による提案
 KEK の敷地を仮定

大強度陽子ビーム
 1 GeV (>200 μ A)



正式には
KEK と核研併合後
の新機構が提案

大強度陽子ビーム
3 GeV (200 μA) +
50 GeV (10 μA)
+ (重イオン)

Figure 1: Site plan for a new 50 GeV PS. The outer ring is the existing TRISTAN tunnel in which a new B-factory is under construction. The site of the present KEK 12 GeV PS ring will be used for a new 3 GeV Booster. The 50 GeV PS tunnel will be a brand new one.

From PANIC, May 1996

7

■ 1994年秋から暮れにかけて (理研)

- 当時は、核研をそのまま生かして何らかの再生を図るか、あるいは、潰してKEKと一緒にあって大きな計画を進めるか？ その2つに1つの選択。
- 私は理研に招聘されたので、石原さんと毎夜のように議論。
 - 結論としては、やはり核研は大計画を志向すべき。昔の大ハドロン計画を復活させるべきではないか？ それならば私も帰るべき。

■ 1994年秋から暮れにかけて (KEK)

- 12月には、KEK-PSレビュー：私がレビュー委員長
 - 菅原所長は、中性子計画をブースターのアップグレードで済ませようとした。
 - しかし、コミュニティに聞いてみると、そんなのはダメ。
 - 核研も含めたコミュニティを講堂に集めて大議論会。
 - ニュートリノに関しては、出来ればニュートリノ実験を始められないかを打診された。戸塚・西川・鈴木氏らの訪問を受ける。

■ 1994年11月-12月

- 1984年末、私は内々で帰国を決意。J-PARCの原型となるデザインを開始。
- 山崎、森、杉本、等の人々でタスクフォース。定期的に会合。
 - 200MeVリニアック、3GeVシンクロ、50GeVシンクロを基本にしたい
- 大ハドロンとは「50GeV」だけ異なる
 - 反陽子の生成が可能、偏極陽子でも魅力。
 - 重イオンでは、核子あたり20GeVあたりが高密度核生成に最適。
 - 30GeVではAGSやCERN-PSの繰り返し。斬新性を入れたい。
 - (ニュートリノではタウ粒子生成も) ... ただし、当初計画には、ニュートリノは入っていなかった。(高エネルギーの警戒感)

■ 1995年2月-3月

- 2月のタスクフォースでパラメーターを確認
- 3月の核物理委員会へ(これには私は出席しなかった)
 - 当時の風潮は、この計画は原子核で施行。高エネルギーは別の計画。

9

■ PANIC'96 → (右の発表)

■ 1995年夏前

- 菅原氏の前で、石原氏臨席の下、正式に私の帰国の決意を表明。

■ 1995年秋：核研で50GeVに対する大きな研究会

■ 1996年

- 日本学術会議で、JHF計画の発表会。私が計画の全容を発表。(伊達委員長の時)

■ 1996年暮

- コロンビア大学から帰国。東大核研に移籍。

PROSPECTS FOR 50 GEV PS AND ITS COMPLEX IN JAPAN

S. NAGAMIYA
Department of Physics, Columbia University
538 W120th St., New York, NY 10027, U.S.A.

In Japan a new plan to construct a 50 GeV PS is in progress. This plan consists of a 3 GeV booster synchrotron at 200 μ A and a 50 GeV proton synchrotron at 10 μ A. Also, heavy-ion acceleration is planned. The desire is that construction starts in 1997-8 and the first beams in 2002-3. INS at the University of Tokyo and KEK will create a new joint institution for this project. Physics and progress of the project are briefly overviewed.

1. Recent Progress and Overview of the Project

1.1. Recent Progress

Recently a project to construct a 50 GeV PS at the KEK site has been discussed extensively. This new project is an updated revision of the previous project (called JHP = Japan Hadron Project) in which construction of a high-intensity 1 GeV Linac was planned since 1986. Because this JHP had faced several difficulties for smooth construction, a subcommittee was formed in November, 1994, under the Japanese Nuclear Physics Committee, to review the JHP and to recommend the best strategy of the JHP for the 21st century. In February, 1995, this subcommittee presented the first proposal: a) JHP#1 should be a 3 GeV synchrotron, b) JHP#2 must be planned in the vicinity of 50 GeV at beam current higher than that of the AGS, c) acceleration of heavy-ion beams and polarized protons should also be considered, d) a full utilization of the existing KEK-PS infrastructure, and e) the entire facility must be

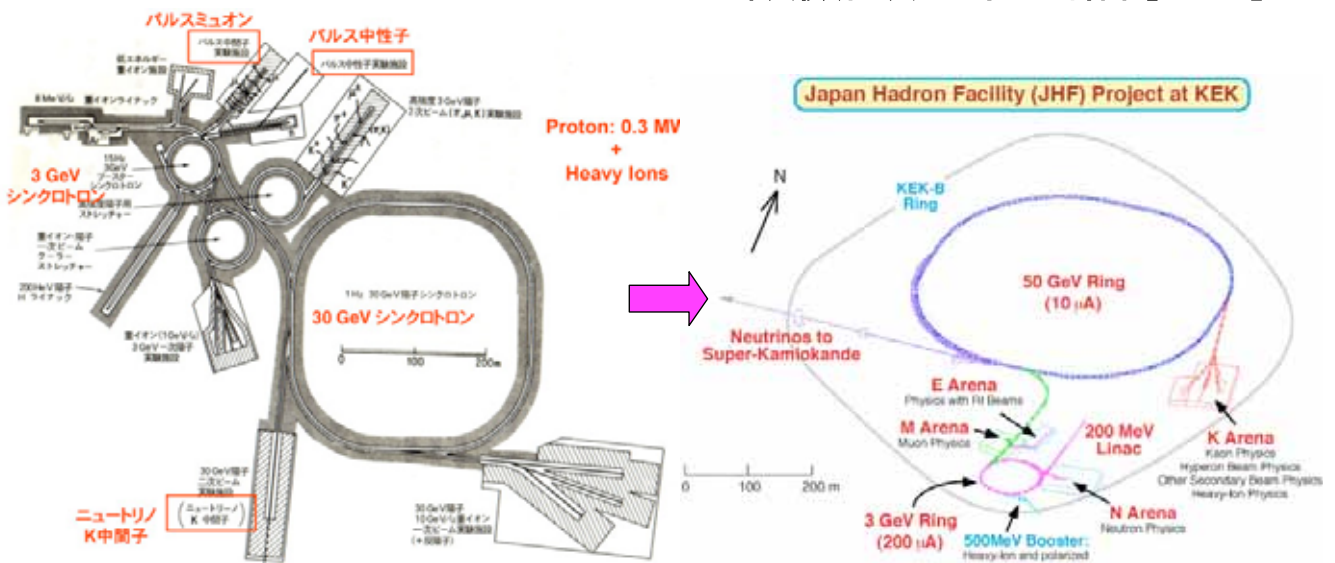
統合計画誕生の頃

KEKの研究計画 (KEK Project)

大ハドロン計画

(1986年、核物理コミュニティー発案)

東大核研の大型ハドロン計画【JHP】



大型ハドロン計画【JHF】

(1997年、高エネルギー加速器研究機構提案)

JAEAの研究計画 (JAEA Project)

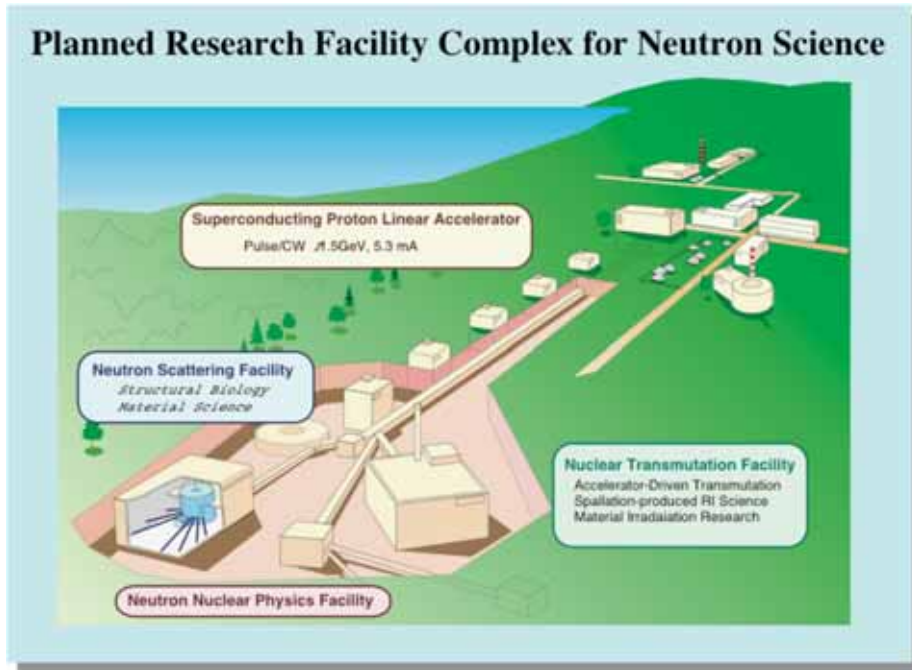
オメガ計画

(1988年～、加速器駆動消滅処理)



中性子科学研究計画

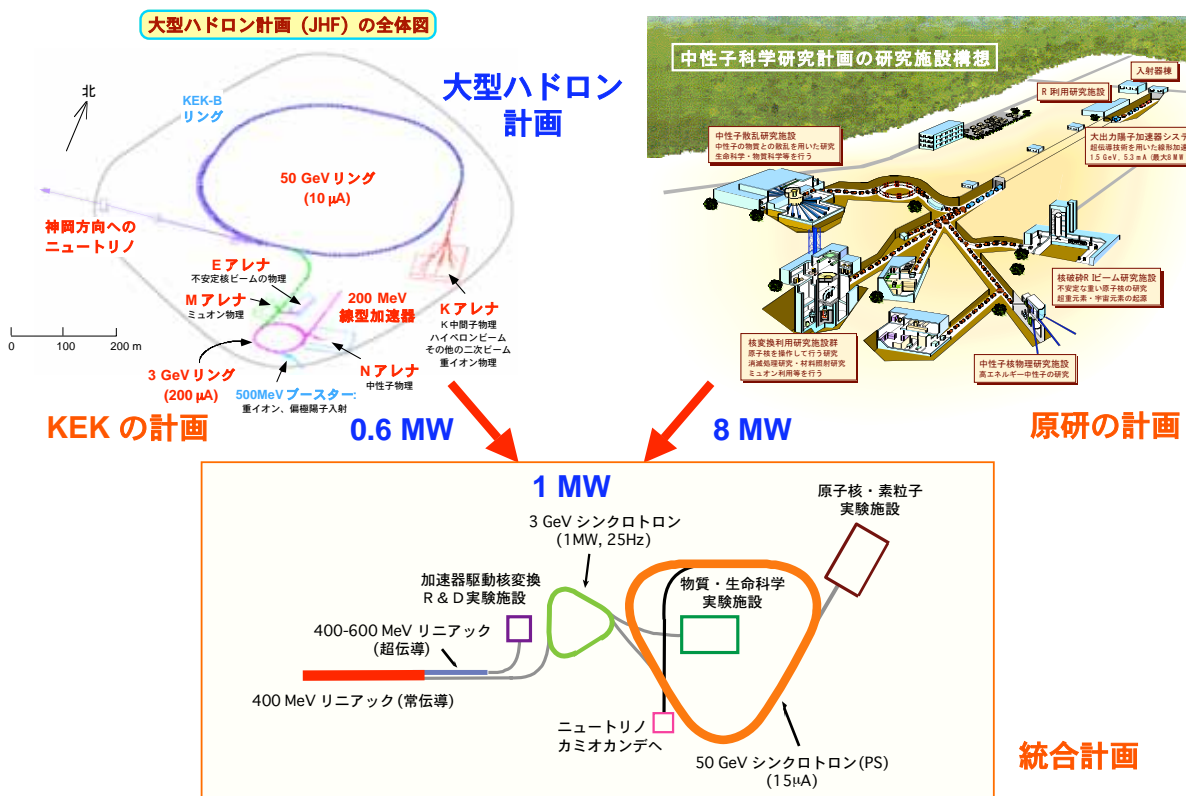
(1995年～、多目的中性子利用施設計画)



13



統合計画 (1998)



14

大型ハドロン計画と中性子科学研究計画の 推進に関する覚書

JHF

Neutron Facility

大強度陽子加速器を用いた科学技術の総合的展開を図るために、高エネルギー加速器研究機構（以下「機構」という。）と日本原子力研究所（以下「原研」という。）

は、機構の大型ハドロン計画と原研の中性子科学研究計画とを統合し、本覚書は、機構と原研（以下「両機関」という。）が相互信頼に立って計画の策定及び施設の建設に係る連携・協力を進めるためである。

なお、施設建設後の運営に関しては、別途協議

1. 両機関は、大型ハドロン計画と中性子科学研究の東海研究所に建設するための統合計画を策定する。
2. 両機関は、機構・原研の代表、ユーザーコミュニティを構成される協議委員会を設置し、統合計画の協議委員会の意見を踏きつつ進める。
3. 統合計画の推進は、機構の大型ハドロン計画と中性子科学研究センターを中心に編成される「共同推進

1999.3.18.

平成11年3月18日



覚書調印式

JAERI
松浦理事長（当時）

KEK
菅原機構長（当時）

中性子科学研究計画と大型ハドロン計画の 推進に関する覚書

大強度陽子加速器を用いた科学技術の総合的展開を図るために、日本原子力研究所（以下「原研」という。）と高エネルギー加速器研究機構（以下「機構」という。）

と機構の大型ハドロン計画を共同で推進することとし、「両機関」という。）が相互信頼に立って計画の策定を進めるための基本的な考え方を定めるものである。

は、別途協議するものとする。

と大型ハドロン計画の加速器及び実験施設を原研統合計画を策定する。

ユーザーコミュニティの代表及び学識経験者で、統合計画の推進にあたっての重要事項について

研究所中性子科学研究センターと機構の大型ハドロン計画「共同推進チーム」によって行う。

茨城県つくば市大穂1-1

高エネルギー加速器研究機構長
菅原 寛彦

東京都千代田区内幸町2-2-2

日本原子力研究所理事長
松浦 祥次郎

東京都千代田区内幸町2-2-2

日本原子力研究所理事長
松浦 祥次郎

茨城県つくば市大穂1-1

高エネルギー加速器研究機構長
菅原 寛彦

計画認可前の主な動き

- **1998年秋:** 高エネ機構と原研間による統合計画の議論
 - 大型ハドロン計画と中性子科学研究計画の統合の可能性の議論
- **1999年3月:** 高エネ機構と原研間の覚書
 - 統合計画の内容、ユーザー層も入れた協議会、推進チームの結成、等
- **1999年4月:** 国際レビューの実施
 - Y. Cho (委員長), 上坪宏道 (副委員長), ら内外12名の委員
 - 本計画を強く支持、学術と技術の統合は科学のルネッサンス
- **1999年5月:** 関連主要委員会での議論
 - 学術審議会：加速器科学における省庁間連携の重要性を指摘
 - 原子力委員会：統合計画のヒアリング
- **1999年8月:** 両省庁が共同提案を決意。大蔵省に説明に。
- **1999年12月 - 2000年8月:** 第三者評価
 - 原子力委員会と学術審議会の下に設置。末松安晴委員長ら11名の委員。
 - 本計画は実現すべき計画。ただし、優先順位を付して実施する。
- **2001年(平成13年)4月:** 本計画建設着手
 - 総額1,890億円のうち、第1期分1,335億円の建設着手が予算化。



■ 国際的分業と国際分担

- 21世紀には世界の科学は分業体制に（3極構造）。
- 世界の科学者は、日本がいくつかの分野で世界のリーダーシップと責任を取ることを期待している。
- アジア・オセアニア圏における先端科学センターの構築。

■ 研究環境の充実

刺激のある素晴らしい研究環境を作り出すことが、21世紀日本の最大の課題。

- Cavendish Lab., Niels Bohr Inst., Princeton Advanced Inst., 等々
- 研究環境とはお金ではない（お金も重要だが）。同じ方向に興味を持つ世界のトップレベルの科学者を一ヶ所に集める。

2000年春のJ-PARC事前評価部会における私の発表の最終ページより

17

■ 2000年7月の危機

- KEKではプライオリティの混乱。KEKの主計課長は右往左往。

■ 2000年8月の危機

- 科学技術庁の上原会計課長が、こんな無茶な計画はダメだと主張
 - 中性子関連では、新村氏(JAEA)や新井氏(KEK)に動員をかけ、文科省近くで徹夜態勢。
 - 私も、アジア物理学会中に木村課長補佐から連絡を受け、急遽帰国。

■ 2000年11月の危機

- 原研がイーターと二股をかけていたので、今年度は見送ろうかという風潮が文科省に。
 - 齋藤副理事長が、椎名議員のところに行って、今年は「統合計画」で行きまずと明言。
 - 早速、椎名議員は大蔵省に連絡をし、原研が態度を決めたと通報。
 - その時、私は、黙って横で見ただけだが、このプロジェクトはゴーになったと直感。

18

2001年5月の発足調印式

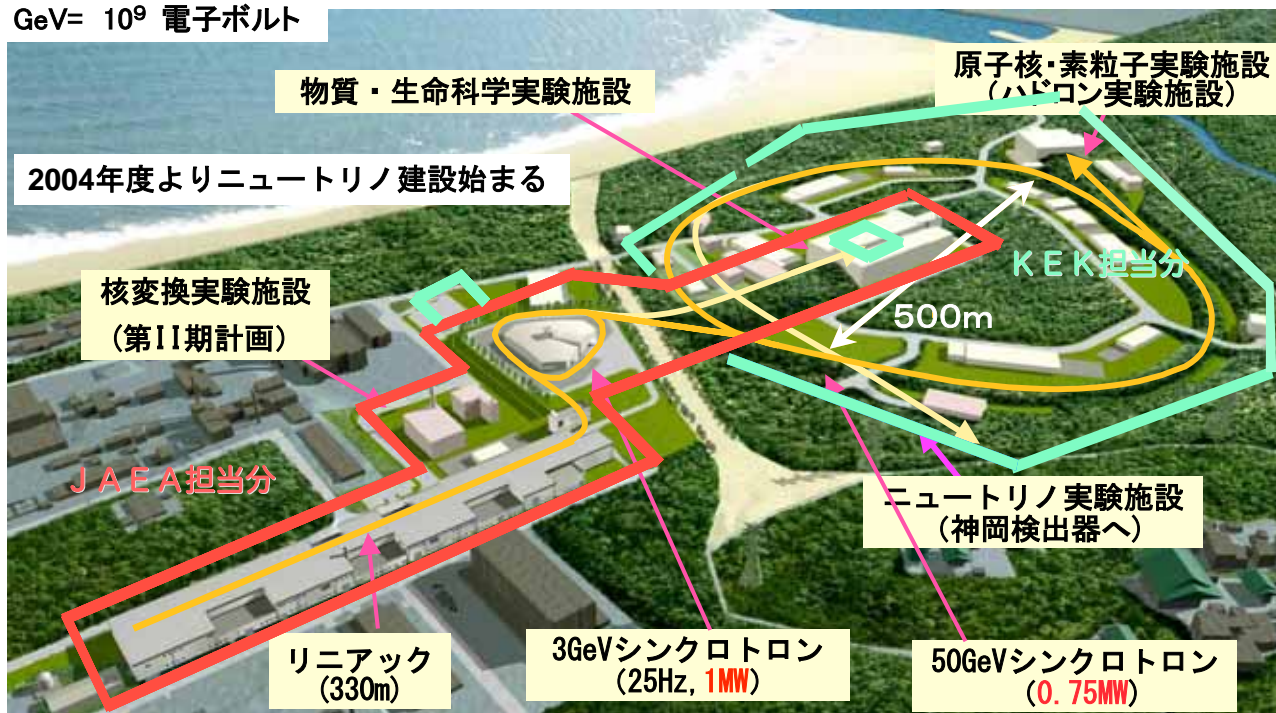


J-PARCの
完成まで



J-PARC大強度陽子加速器施設

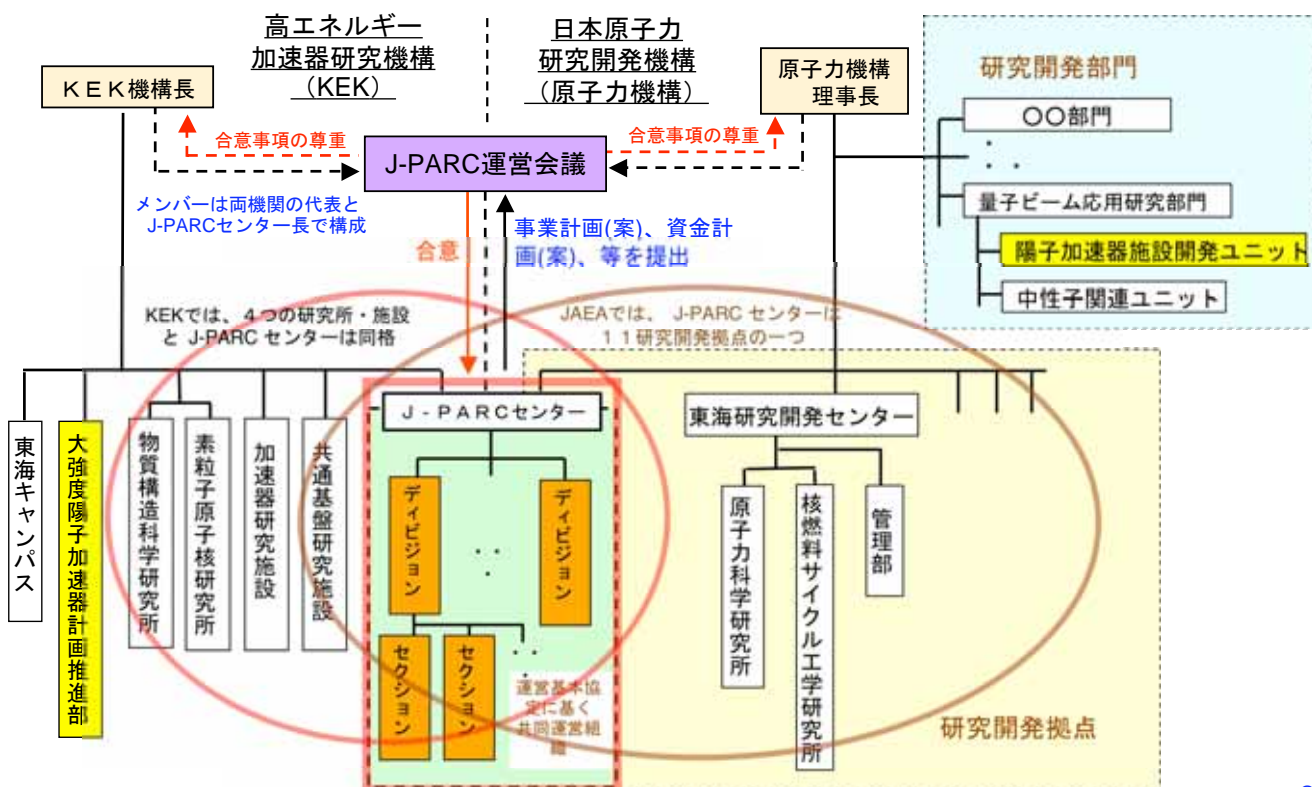
GeV= 10^9 電子ボルト



日本原子力研究開発機構 と高エネルギー加速器研究機構の共同事業



両機関によるJ-PARCセンターの設置 (2005年度)



Ceremony in August, 2005 for the start of the J-PARC Center

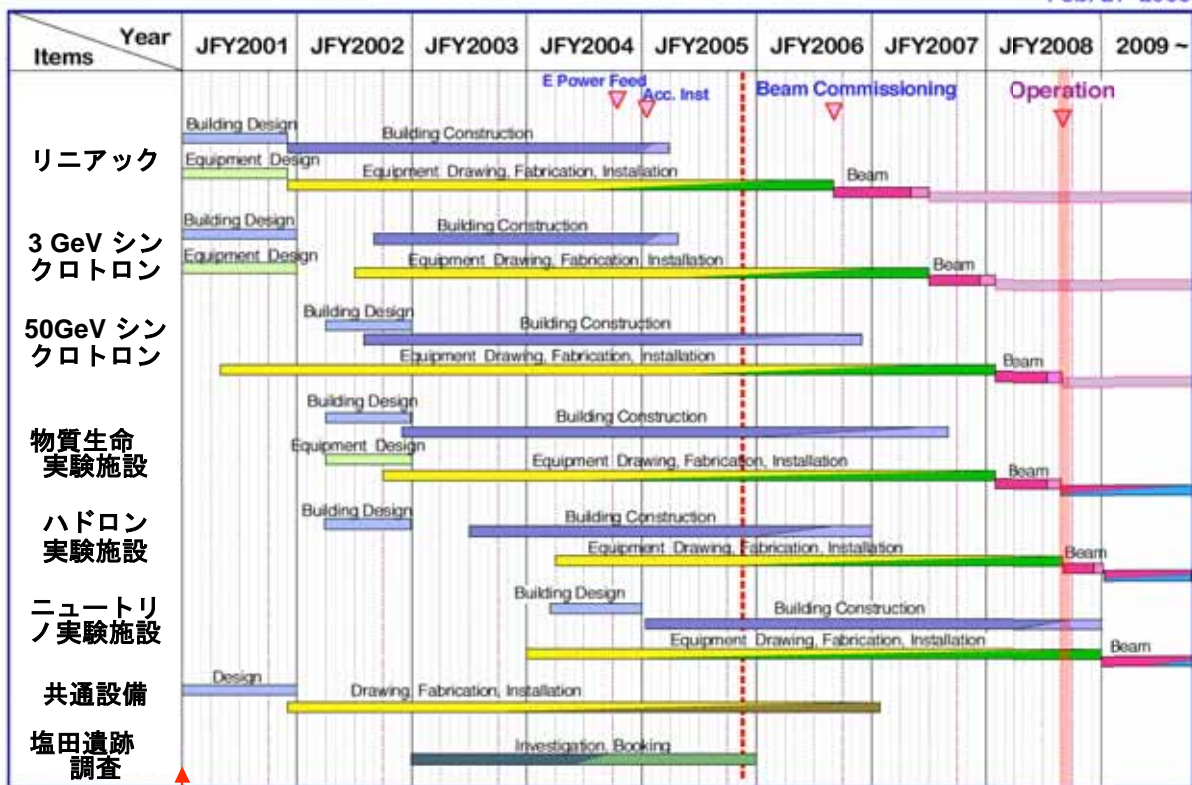
大強度陽子加速器施設の運営に関する基本協力協定署名式

原子力研究所 高エネルギー加速器研究機構



J-PARC Construction Schedule

Feb. 27 2006



建設開始

この工程表
作成時点

中性子・ミュオン
供用開始

完成記念式典 (1)

2009年7月6日



江田
参院議長



塩谷 大臣
金澤日本 学術会議長
今井 敬氏
有馬 元大臣
橋本茨城 県知事



外国からの挨拶



岡崎 理事長
鈴木 機構長

参加者 (全部で約900人)

完成記念式典 (2)



小柴氏 小林氏

大勢の外国人
と共に
式典フィナーレ

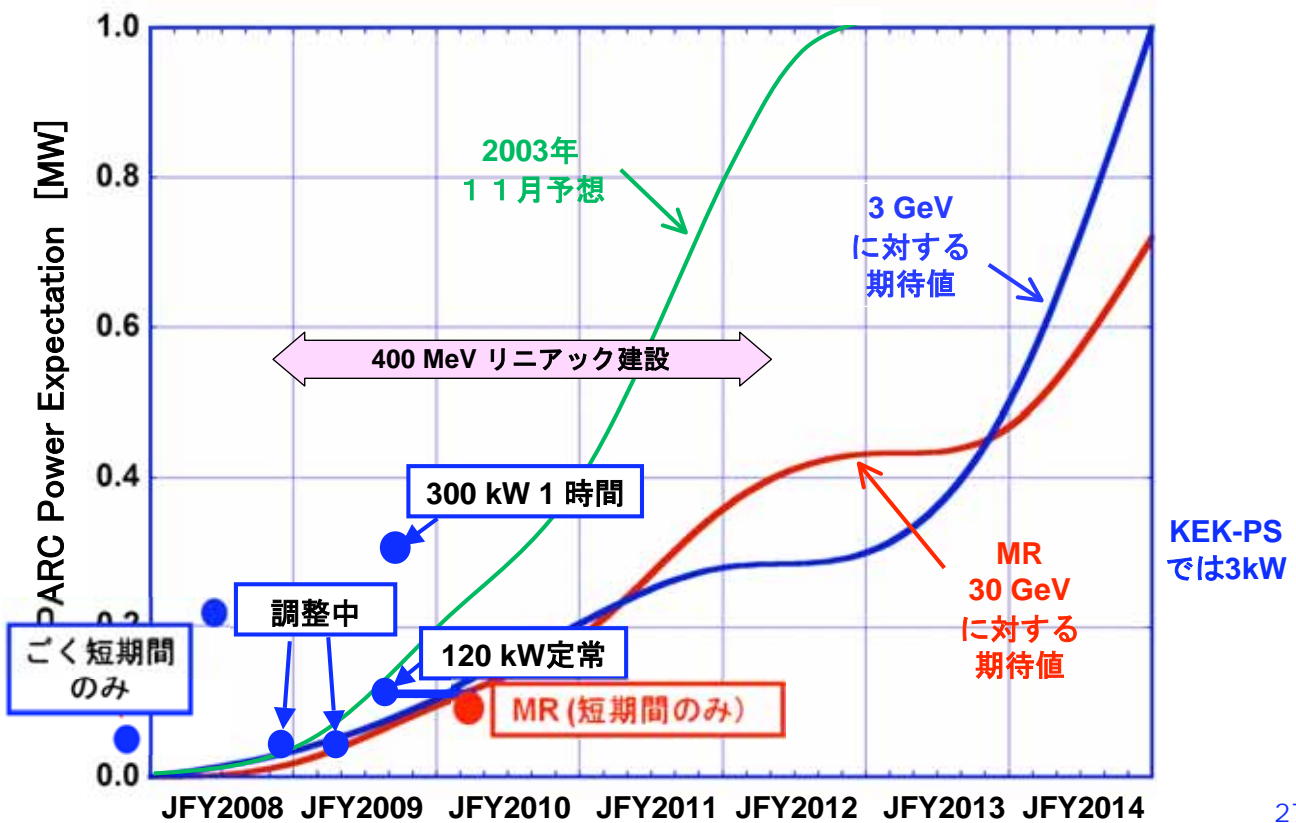


谷垣祐一氏



内藤正光氏
小林誠氏
青木愛氏

完成記念式典 懇親会



- 中性子とミュオン
 - 中性子：いかに 23本のビームラインを作るか（現在、18本まで予算化）
 - ミュオン：4本のビームラインの内、1本のみ運転。残り3本をいかに作るか？
- ハドロン
 - いくつかのK中間子ビームラインと一次ビームラインの整備.
 - ハドロンホールの拡張
 - 他の実験の可能性
- ニュートリノ
 - パワーの増強
 - 第2の検出器.
- 核変換
 - 2期計画の中心
- 他の項目
 - 50 GeV へのエネルギー増強.
 - MRのからの第3の引き出し
 - 偏極ビーム、重イオンビーム
 - その他、新しい実験



利用者協議会の報告書 (昨年5月)

目次

1 はじめに	4	6 核変換	31
2 素粒子物理学	5	6.1 背景	31
2.1 素粒子物理学の展開	5	6.2 概略	31
2.2 ニュートリノ	6	6.3 加速器駆動未陽性原子核による核変換の研究	32
2.3 K中間子	7	6.4 J-PARCでの研究	33
2.4 ミュオン素粒子物理	8	6.5 J-PARCでの研究実現に向けて	34
2.5 超低エネルギー中性子を用いた素粒子実験	8	7 産業利用	36
2.6 テストビームライン	9	7.1 まえがき	36
2.7 まとめ	9	7.2 産業界共通のグランドデザイン	36
3 原子核物理	10	7.3 産業界分野別	37
3.1 原子核物理の展望	10	7.3.1 製薬・食品工業	37
3.2 J-PARCでのストレンジネス核物理	11	7.3.2 鉄鋼・金属材料・機械 (自動車部品)	37
3.3 J-PARCでのハドロン物理	13	7.3.3 ゴム・プラスチック・化学素材	37
3.4 施設等の要望	15	7.3.4 磁石・磁性・記録材料	38
4 中性子	17	7.3.5 蓄電デバイス	38
4.1 序論	17	7.3.6 燃料電池	38
4.2 結晶・応用材料	17	7.4 利用拡大に向けて	38
4.3 非晶質・液体	18	8 J-PARC 加速器の可能性と将来計画	41
4.4 ソフトマター	19	8.1 はじめに	41
4.5 強相関電子系	19	8.2 これまでのビーム試験結果と第一期性能の実現	41
4.6 水素系	20	8.2.1 加速器の性能	41
4.7 生命・生物	20	8.2.2 新たに導入した技術	43
4.8 中性子イメージング	21	8.2.3 加速器安定性・信頼性	44
4.9 基礎物理	22	8.2.4 性能の改善	45
4.10 まとめ:新しい物質観と新しい物質・材料の創出に向けて	22	8.3 MR増強可能性	45
5 ミュオン科学	24	8.4 更なる長期的将来への備え	46
5.1 物質・生命科学に必要な新しいμSR法の創出	26	9 J-PARC 利用者協議会が強く J-PARC における研究の指針と展望	48
5.1.1 表面・界面ナノサイエンス/超低速ミュオンによる物質科学	26	9.1 初期:今後5年間	48
5.1.2 物質内部/低速ミュオンによる物質科学	27	9.2 中期:今後10年間	49
5.2 ミュオン触媒核融合/エキゾチック原子の科学	28	9.3 長期:10年後以降	50
5.3 素粒子物理学の基本問題としてのミュオン	28	9.4 終わりに	50
5.4 中長期的な展開	29	10 執筆者	52
5.5 まとめ	30		



利用者協議会の報告 (執筆者)

10 執筆者

● J-PARC 利用者協議会委員

委員長 →

氏名	所属	専門
中家 剛	京都大学	高エネルギー物理学
山中 卓	大阪大学	高エネルギー物理学
駒宮 幸男	東京大学	高エネルギー物理学
西川 公一郎	KEK	高エネルギー物理学
田村 裕和	東北大学	原子核
永江 知文	京都大学	原子核
酒井 英行	東京大学	原子核
齋藤 直人	KEK	原子核
仲澤 和馬	岐阜大学	ハドロン利用者協議会
金谷 利治	京都大学	中性子
佐藤 衛	横浜市立大学	中性子
山田 和芳	東北大学	中性子
吉沢 英樹	東京大学	中性子
藤井 保彦	JAEA	中性子
西田 信彦	東京工業大学	ミュオン
鳥養 映子	山梨大学	ミュオン
西山 樟生	KEK	ミュオン
福永 俊晴	京都大学	MLF 利用者協議会
岩崎 智彦	東北大学	核変換
鬼柳 善明	北海道大学	核変換
福嶋 喜章	豊田中央研究所	産業界
西島 和三	持田製薬	産業界
亀井 信一	三菱総研	産業界
林 眞琴	茨城県	

● J-PARC 加速器

氏名	所属	専門
山崎 良成	KEK	加速器
安東 愛之輔	KEK	加速器
吉岡 正和	KEK	加速器
小林 仁	KEK	加速器
長谷川 和男	JAEA	加速器
金正 倫計	JAEA	加速器
小関 忠	KEK	加速器



来年もレビュー？ J-PARCに係る国の評価

2000(平成12)年8月：原子力委員会と学術審議会による合同の「大強度陽子加速器施設計画評価専門部会」 (事前評価：末松安晴委員長) **9か月のレビュー**

- 科学技術・学術的な意義、経済的・社会的な意義が双方とも十分に認められ、早期に着手すべきであると評価する。一方、財政状況を踏まえれば、順次建設に着手することが必要。(第I期、第II期に計画を分割)

2003(平成15)年12月：科学技術・学術審議会の学術分科会及び研究計画・評価分科会による合同の「大強度陽子加速器計画評価作業部会」 (中間評価：小平桂一委員長)

- ニュートリノ実験施設については平成16年度着手、20年度完成を目指すべき。リニアックに関しては、200MeVでのリニアックの運転開始後速やかに400MeVまでの整備に着手し、3年程度で完了することが適当。核変換実験施設については、原子力委員会等他の国レベルの検討。 **1か月のレビュー**

2007(平成19)年6月：科学技術・学術審議会の学術分科会及び研究計画・評価分科会による合同の「大強度陽子加速器計画評価作業部会」 (中間評価：井上明久委員長)

- 完成後の運営体制 (J-PARCセンター) は、両機関の協力の下でスタート。今後適切な時期にレビュー。
- 利用指針： 利用者本位の原則。公開課題は無償。受付窓口や課題審査委員会の一元化。
- 産業界等にとって使いやすい仕組みを早急に整備することが必要。 **6か月のレビュー**
- 早期のリニアック性能回復の実現。第II期計画はコミュニティにおいて優先順位付け。
- **運転経費 (維持費)**： 算定の考え方は妥当。ただし、経費削減の努力が必要。
- 国内外に開かれた国際的研究施設として、研究環境及び生活環境の国際化が必要。

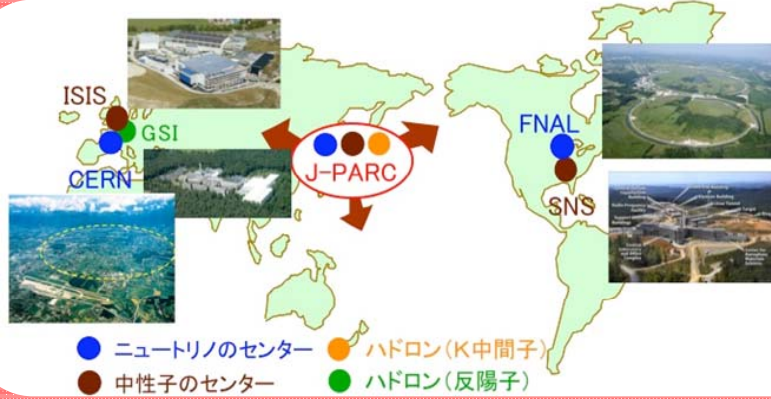
31



J-PARCの諸施設を支えるもの

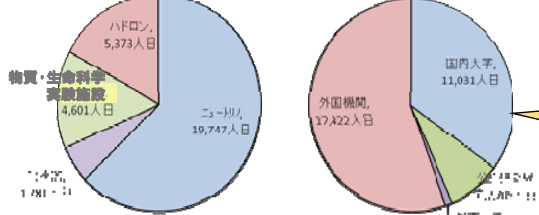
32

国際拠点としてのJ-PARC



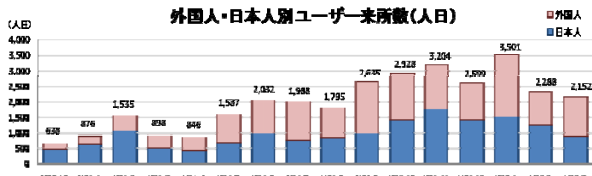
- 中性子分野では、ISISやSNSと並んで世界の3極を作る。
- さらに、ヨーロッパもMWクラスの新たな計画(ESS)を提案し、認可されつつある。
- ハドロン・ニュートリノでも世界の3極を作る。
- ◇ J-PARCは、世界拠点として、すでに1ヶ月あたり3000人・日のUserが集まっている。そのうち、約半分は外国人。
- ◇ この数は、急増している。
- ◇ 中性子分野では、特にアジア・オセアニアとの結びつきが強い。

来所施設別集計(人日) ユーザー所属別集計(人日)



J-PARC ユーザー
若手は全体の60%を占める

外部研究者の利用も促進



増え続けるユーザー
H20.12の稼働開始以来、
総数延べ35,102人日
(H22.3月現在)

**しかし、日本の国際化は、
これからの大きな課題!**



2010年8月17日
外国人研究者と村長

The first CKorJ-PARC and J-PARC Collaboration Meeting
(Aug. 26, 2010

IQBRC Meeting Room)

IQBRC



Je-Geun Park speech



A.Ando



Kye-Ryung Kim



M.Arai



Y.Miyake



N.Saito



T.Kobayashi



S.Nagamiya speech



Soo-Bong Kim



J-PARC 施設公開



2008年は約2,600名来訪

2009年は東海研究開発センターと
同じ日に実行（8月1日）

2009年は 4,600 名来訪
内J-PARC見学者は3,700名
(+スタッフ 600 名)

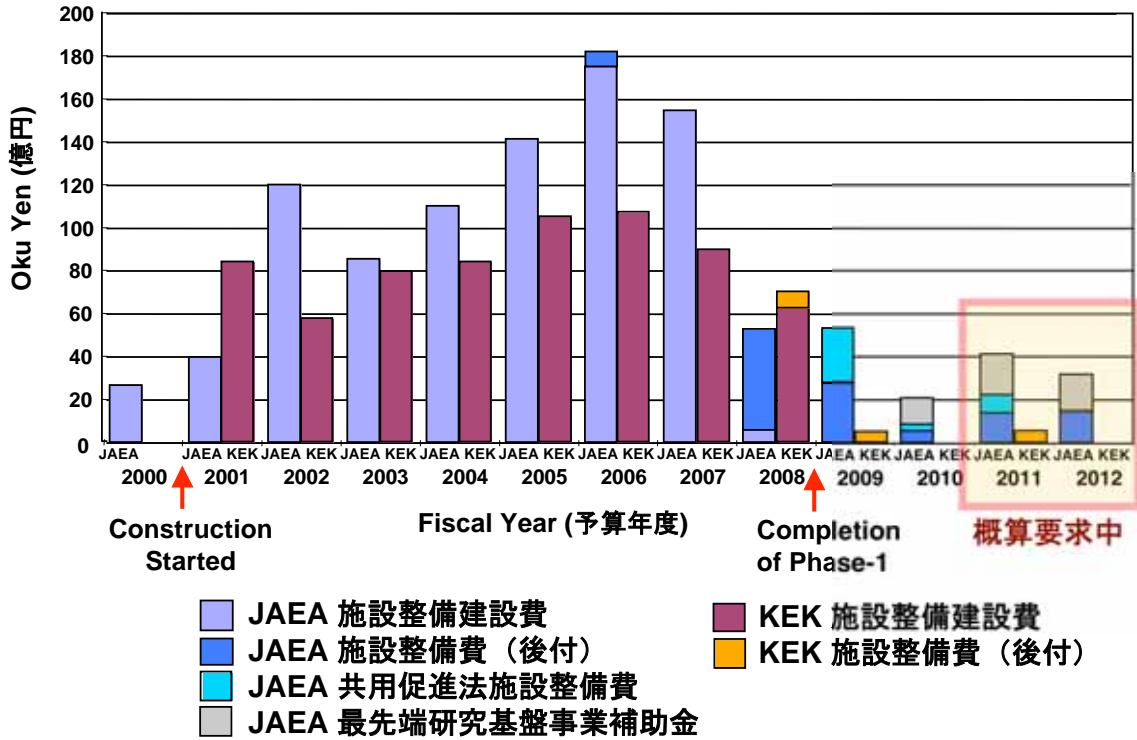


2010年は3,800名来訪
この数はほぼ適正サイズ

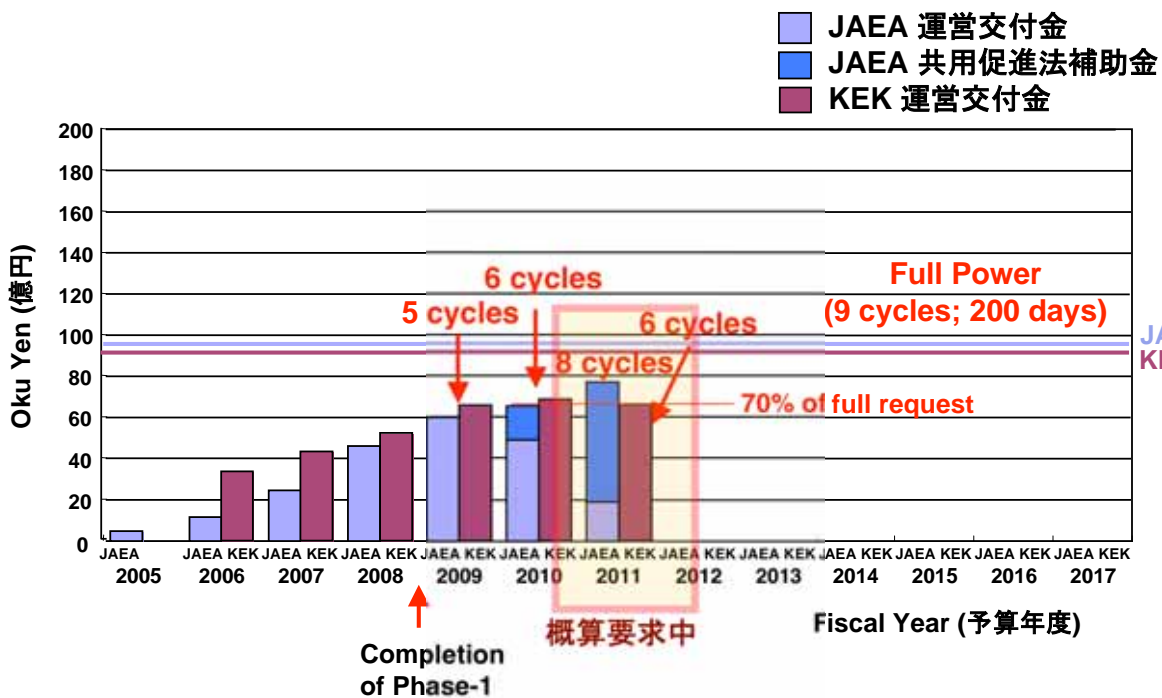
建設費 (施設整備費)

Initial Construction (JAEA) = 858 Oku Yen (56%)
Initial Construction (KEK) = 666 Oku Yen (44%)

After Construction (JAEA) = 200 Oku Yen incl. proposed
After Construction (KEK) = 18 Oku Yen incl. proposed



維持費 (運営交付金)



JAEA Goal
KEK Goal

私の経験から 得た教訓

私の経験から得た教訓 (1)

- 何かの夢に向かって進みましょう
 - 私の夢：日本に科学の一分野でもいいから世界のトップに立てる装置を！
- 石の上にも3年
 - 3年は必死に頑張りましょう。4年でもいい。しかし、6年以上は頑張らなくていい。
- 国際的に声を挙げてもらいましょう
 - J-PARCの例：OECDからハドロンや中性子に対する声援。
- 出来る限り大きな委員会での評価を受けましょう
 - 補正予算や簡単な評価で立ち上がる計画は、立ち上がりは楽。
 - しかし、きちっと評価を受けると、運営期には予算的に楽になる。
- 建設終了後も施設整備の予算が必ず必要となるので、間髪をいれずに、常に要求を続けましょう
 - JAEAでは成功した。完成後も200億円の予算がついている。

——— リーダーの努力で可能 - - - - - リーダーの努力のみでは不可能
無印 リーダーの努力も必要だが、親の機関の決定に大きく依存

私の経験から得た教訓 (2)

- 建設は長引くので、これが世界の流行を作れるように常に国際社会に発信しましょう
 - J-PARCで一番心配だったことは、完成時点では25年前のアイデアがはたして流行を作り得るのかという心配。
 - 世界的に発信を続けると、世界の流行も変わってくる。
 - 中性子では、SNS, ESS, CSNS.
 - ハドロンではFAIRと常に連絡。
 - ニュートリノでは、世界の競争の的に。
- 国の何らかの要請がない限り、プロジェクトは工程通り進めましょう
 - J-PARC : 当初6年計画が、国の要請で8年に（これは仕方がない）
 - 最後の3年は、工程を必死に守った。
 - 最後の1年は、ニュートリノ先行を進める動きがあった。私は必死に抵抗し、工程を守ること（ハドロンを作ってからニュートリノ）を主張。最後に、KEKの財務部長まで必死に主張してくれた。
 - この必死の努力があったから、工程通りに進み、結果として、文科省はこのプロジェクトを推してくれている。

41

私の経験から得た教訓 (3)

- 組織のトップに立ってプロジェクトを進めましょう
 - J-PARCで私個人が大変だったことは、私が組織の何物でもなく単なる教授であったこと。（通常は組織のトップがプロジェクトを率いる）
 - 帰国後4年半でプロジェクトが認可。その後、概算要求をして「推進部長」という職を取ってきて、5年半後に初めて管理職に。
 - その後、J-PARCセンターができる。
（現在のセンター長のKEKでの役割？）
- 二機関で進める事： ???
 - 両機関で力を合わせて、両機関の良いところを伸ばせば、より良いものが出るのでは？ ... これは理想
 - 両機関の合同体をいかにデザインするか？
 - 利用者本位の一体的共同組織（施設完成後の利用体制に関するタスクフォースの報告（今井報告）が2002年2月に利用者協議会で報告された）
 - 当時の伊達委員長や井上（信）委員長からは、これこそ新しい組織体制の基本とすべきであると絶賛。
 - 一方、こういった組織はナンセンスで、二機関が別々に運営した方がいいという主張も出た。
 - 現在も、延々とこの議論がつづく。

42